

Abstract

AROMA RESEARCH No.56 (vol.14/No.4)

ストレス誘発皮膚バリア機能低下に及ぼす香り吸入の抑制効果 渡邊 達生

〈要旨〉

→本総説では、ストレスによる皮膚バリア機能低下に及ぼす香り吸入の抑制効果について概説する。ラットの研究では、90分間の急性拘束ストレスによる室傍核 Fos タンパクの発現上昇が、緑の香りやバラの香りの吸入により顕著に抑制された。1日8時間14日間の慢性拘束ストレスによる皮膚バリア機能低下は、緑の香りやバラの香りの吸入により防止された。一方、ヒトの研究では、進級テスト（慢性ストレス）中の女子学生の血漿コルチゾール濃度と経皮水分損失量増加が、バラの香りの吸入により有意に抑えられた。グルココルチコイドの慢性投与が皮膚バリア機能低下を起こすことが報告されているので、香りはストレスによる視床下部-下垂体-副腎系の活性化を抑制して、皮膚バリア機能低下を防止するものと推察される。

〈キーワード〉

→緑の香り, バラの香り, ストレス, 皮膚バリア, グルココルチコイド